

平成27年 柏崎市刈羽郡保健体育研究部 活動報告

部 長 池田 和弘

1 はじめに

柏崎市刈羽郡学校教育研究会は、会員の資質向上及び学校教育の充実発展を図るため、柏崎市教育委員会及び刈羽村教育委員会、柏崎市立教育センター、関係機関等と連携し、特色ある事業を推進することを基本方針としている。保健体育研究部の今年度の部員は、小学校38人・中学校29人・特別支援学校9人・柏崎翔洋中等教育学校2人の計78人で構成している。実技研修と授業研究を柱に、学習指導力の向上を目指し、児童生徒が自発的に運動に親しみ、体力向上につながる学習指導のあり方を研究してきた。

2 研究の概要

(1) 柏崎市立教育センターとの連携による事業

- ①「武道指導技術講習」 11月12日
- ②「性教育研修」 11月25日
- ③「ニュースポーツ研修」 12月17日

(2) 実技研修

- 「走り幅跳び、短距離走の指導法」8月20日

講師 柏崎市立第一中学校

教諭 佐藤 光介 氏



2人組での運動を楽しむ児童
「割りばし、持てるかな」

(3) 研究部内授業研修

- ①小学校の部 ②中学校の部

小学校の部の研修は、郡市内の小学校を4グループに分け、順番に授業研究を行っている。今年度は、第1グループの代表が以下のような授業を行った。

3 授業研究（小学校の部）

- (1) 単元名 第4学年 体づくり運動 「2人組で運動を楽しもう」（3/3時間）
- (2) 授業者 柏崎市立荒浜小学校 教諭 福永 勝康
- (3) ねらい 2人組で行う各種の運動をすることを通して、相手と調子を合わせて動くよさを体感し、楽しく運動しようとすることができる。

(4) 授業の概要

「馬跳び→足くぐり」「タオルとり」「割りばし、持てるかな」などの2人組で行う運動に相手を変えながら児童は取り組んだ。はじめは「2人で力いっぱい行う運動」であったが、その後「相手と力の入れ方を考えながら行う運動」に変わると、児童は心のもち方や力の入れ方について考えたり、工夫したりしながら取り組んでいた。児童は相手に合わせて運動する楽しさを味わっていたようである。

(5) 授業を終えて

- ①「力いっぱいの動き」や「繊細さが要求される動き」など、様々な動きを2人組で楽しみ、相手と合わせて動くよさや難しさを児童が体感していた。
- ②「整列後さいころを振って、出た目の数だけ一方の列が動いて相手が変わる」という方法が児童の興味を誘うとともに、相手が変わっても誰とでも心や言葉を交わし、相手を気遣う好ましい姿が見られた。
- ③運動の開始や終了時に合図として叩く拍子木が効果的であった。強弱に変化を付けて叩くことにより、児童の注目を誘い、運動への集中につながっていた。

4 おわりに

児童生徒に生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるには、まず、教師自身が運動や健康に関心を持ち、そのよさや楽しさを学習や様々な活動を通して伝えていく必要がある。児童生徒が仲間とかかわり合いながら、いろいろな運動に取り組み、楽しさや喜び、達成感を味わうことができるよう、当学校研保健体育部では今後も教師の指導力向上を図り、発達段階に応じた指導を充実させていきたい。